

これからの自衛隊のあるべき姿

槇田 尊人

早稲田渋谷 シンガポール 高校卒
防衛大学校(一次試験合格) 予備自衛官補

これからの自衛隊のあるべき姿として、第一に中国の脅威にさらされている国の保有する抑止力の一つとなることであると私は思います。安保法制の制定によって、自衛隊が集団的自衛権を獲得し、またアメリカ軍以外に対しても支援が行えるようになったため、日本が外国と軍事同盟を結べるようになりました。中国の南沙諸島における違法な実効支配やオーストラリアやスリランカの港の租借、膨大な軍事費の増加が行われている今、日本が各国の国防の一翼を担うことが、望まれているあるべき姿であると思います。

次に、在外邦人の安全を積極的に守りにいくものであると思います。安保法制による自衛隊を派遣する際にかかる時間の短縮や武器使用基準の緩和といったものによって、危険地帯にいる邦人を救出しやすくなりました。ISの危険が世界中にある今、これも自衛隊のあるべき姿であると思います。

三つ目に、防衛力だけではなく攻撃力も兼ね備えた自衛隊となることであると私は思います。日本と中国の軍事力の差は極めて大きいです。日本を守るためには海上にて侵攻を防ぐ必要がありますが、そのための航空基地や海上自衛隊の基地に対し、ミサイル基地からの攻撃で甚大な被害がでてしまえば、海上にて侵攻を防ぐことが不可能となります。そこで、自衛隊に攻撃力を持たせ備え付けることにより、攻撃に対する報復手段を所持していると牽制を効かせることができます。また、尖閣諸島を占領された場合、シーレーン押さえられたことを意味し、一刻も早く奪還しなければならず、その際に攻撃力は必要です。今はまだ攻撃力を増強することは不可能であるけれども将来、攻撃力を所持した存在としてあるのが、自衛隊のあるべき姿であると思います。

最後に、親日国をより増やすために、同時に世界平和を維持するための更なる貢献を行うことが求められている姿だと思います。日本はアメリカ等と違い、戦争を起こし得る能力や国民意識が存在しないため、自衛隊を支援のために海外派遣をした際、政府だけでなく民衆からも受け入れてもらえるでしょう。こうして、日本人が行きやすい下地ができ、また日本に好意的な感情が生まれるはずです。このように、間接的に日本国民の利益となることをすることが求められている姿だと私は思います。

これからあるべき姿が変わろうとも、日本国民や日本、更に世界の平和のための行動を取ることが、変わらない自衛隊のあるべき姿であると思います。